

日本におけるアウグスティヌス文献 (二)

宮 谷 宣 史

私は本誌第二四号(一九七六年刊)で、一九七五年までにわが国で公にされたアウグスティヌス文献を探り、四一四点を集めて報告した。ここには一九七六年以降のものを記載したが、前回の表にもれていた文献の補足もおこなった。文献表成作の意図と方法は第一回分の場合と同様であるが、補足した分に関しては、当該年代のところに挿入するようにしたため、同じ番号を用い、たとえば4aと書いた。これは4の次に位置することをさす。これに対し、1と表されているときには、年代が異なり、しかも1以前をさすことを意味する。つまり、数字に付加してあるa、bはその数字の文献と同一年に出版され、その番号に続く場合で、イ、ロと記されているときには、その番号より前の年代をさす。

さて、一九七六年から三年余りの間に、わが国におけるアウグスティヌス研究は、文献表でみられるごとく、増加している。しかもこの間に、いくつか重要な業績が出版された。たとえば、今年になってから刊行開始された『アウグスティヌス著作集』(教文館)で、全一五巻が予定されており(既刊二巻)、初訳される作品も多い。本著作集が日本におけるアウグスティヌス研究にとって大きな役割を果すことを期待したい。研究書としては山田晶氏の『アウグスティヌ

スの根本問題』(創文社)が公にされたが、本書は日本人による最も優れた業績といえよう。なお、わが国のアウグスティヌス研究で開拓的な働きをした石原謙の主要作品が集められ、著作集(岩波書店)として出版されていることも喜ぶたい。

今回収録した文献数は、補足分三七点、新規に八三点であり、前回の分と合せると五三四になる。ただ前回同様、この表にも記載もれがかなりあると思われる。それでも、研究者が他人の業績を知り、そこから学び合うことは大切である故に、この不完全な試みが役立てばと願っている。

一八九一(明治二四)年

単行本

1イ 田中達『亜古士丁』南海堂

論文

1ロ 植村正久「序」・田中達『亜古士丁』南海堂

一九二二(明治四五)年

単行本

4a 皆川実篤『母の典型』警醒社

一九二四(大正一三)年

翻訳

12a 中山昌樹訳『聖アウグスチヌス懺悔録』改版、新生堂

一九二九(昭和四)年

20a 野々村戒三篇訳「アウグスティヌス神の国」『東西宗教文献篇』(世界大思想全集)春秋社

23a 石原謙「序」・征矢野晃雄『聖アウグスチヌスの研究』長崎書店

一九三一(昭和六)年

44a M・ブロンデル著、今泉三良訳「聖アウグスチヌス千五百年祭に際して——その哲学の本原的統一——」『哲学雑誌』第四六卷、第五二三号

45a 斯波義慧「聖アウグスティヌスと神秘主義」『理想』第二四号

- 46イ 一九三二（昭和七）年
聖アウグスチヌス著、内村達三郎訳『懺悔録』岩波書店
- 56 a 一九三四（昭和九）年
石原謙「アウグスティヌスの内的発展」『神学と教会』（日本神学校神学会編）第一号
- 60 a 一九三五（昭和一〇）年
時田信夫「アウグスティヌスの教会観」『基督教史研究』第二号
- 62 a 一九三六（昭和一一）年
竹森満佐二「回心への準備として見たるアウグスティヌスの内的発展」『神学と教会』第三号
- 65 a 一九三七（昭和一二）年
額賀鹿之助『聖アウグスチン』新生堂
- 72 a 一九三八（昭和一三）年
石原謙「アウグスティヌス研究への示唆」『叢書』第三卷第二七号（同著作集第三卷『初期キリスト教研究』岩波書店、一九七九、三三九―三四六頁）
- 『日本におけるアウグスティヌス文献』(二)（宮谷）
- 78 a 一九三九（昭和一四）年
村田四郎「アウレリウス・アウグスティヌス」・同著『神学と歴史』新生堂
- 104 a 論文 一九四四（昭和一九）年
H・デモリン「聖アウグスティヌスに見られるプラトンの精神」・アウグスチヌス著、野村良雄訳『人倫と愛——ヨハネ第一書の解釈——』エンデル書店
- 108 a 一九四六（昭和二一）年
山田晶「在りて在る者——アウグスティヌスとトマスのExod. 3, 14 解釈——」『京都大学文学部研究紀要』第一三号
- 121イ 一九四九（昭和二四）年
富沢孝彦『聖アウグスティヌスの回心』大塚書院
- 153 a 一九五二（昭和二七）年
石原謙「アウグスティヌス」『基督教講座』第八卷、新教出版社

- 198 a 一九五六(昭和三一)年
岡田五作「アウグスティヌス」・金井為一郎撰『信仰偉人
群像』(古代・中世篇)ヨルダン社
- 209 a 一九五八(昭和三三)年
石原謙「アウグスティヌスに関する近刊訳書」『基督教論
集』第六号
- 209 b 石原謙「アウグスティヌスにおける平和の概念——神国論
第一九卷の研究——」『テオロギア・エキエメニカ』(菅田吉
先生記念論文集)
- 217 a 一九五九(昭和三四)年
野村良雄「アウグスティヌスの音楽観」『礼拝と音楽』第
五卷第四号
- 237 a 一九六三(昭和三八)年
アウグスティヌス著、熊谷賢二訳「ヤヌアリウスへの手紙
——教会の一致と多様性をめぐって——」『カトリック神学』
第四号
- 249 a 小野忠信「アウグスティヌスの思想解説——R. Schneider,
Welt und Kirche bei Augustin に基づいて——」『明治学
院論叢』第八六号
- 323 a 一九六八(昭和四三)年
金子晴勇「アウグスティヌスにおける倫理思想の内的発
展」『キリスト教』理想社
- 337 a 一九六九(昭和四四)年
今道友信「アウグスティヌスにおける超越の問題」(I)
『理想』第四三五号
- 337 b 泉治典「アウグスティヌスとアリストテレス」『理想』第
四二九号
- 338イ 一九七〇(昭和四五)年
翻訳
アウグスティヌス著、熊谷賢二訳『主の山上のことば』創
文社
- 343 a 三木利英「アウグスティヌスの女性」『朝日新聞』六月九
日
- 281 a 一九六五(昭和四〇)年
齊藤勇「Saint Augustine, On Christian Doctrine, trans.
by D. W. Robertson」『季刊英文学』III
- 281 b 三木利英「アウグスチヌスの回心」『中国新聞』一月三〇
日

- 1971 (昭和四六) 年
森泰男「アウグスティヌスの『Verbum Dei』概念について」『文理論集』第二二巻第一号
- 351 b 中沢宣夫「アウグスティヌスの時間論」『理想』第四六〇号
- 297 a 山内一郎「アウグスティヌスと『神の国』」『現代教育学序説』学苑社
- 397 b 坂本清音「ソフィストの弁証論教育と聖アウグスティヌスの De Doctrina Christiana」『同志社女子大学学術研究年報』第二巻
一九七五 (昭和五〇) 年
- 414 a デ・ブラバンデレ「幸福への憧れの表現についてのアウグスティヌスの説教」『カトリック研究』第一四巻第二八号
一九七六 (昭和五一) 年
- 415 アウグスティヌス著、服部英次郎訳『告白』上・下、岩波書店
『日本におけるアウグスティヌス文献』(二)(宮谷)
- 416 E・Pシエヴァーラ編、茂泉昭男訳『アウグスティヌス語録』下、日本キリスト教団出版局
- 417 金子晴勇「アウグスティヌスにおける『超越』の意義——De vera religione を中心にして——」『国立音楽大学研究紀要』第一〇集
- 418 宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス文献(一)」『神学研究』第二四号
- 419 宮谷宣史「アウグスティヌスの説教と説教論」『説教者のための聖書講解』第一四号
- 420 荒井洋一「アウグスティヌスの探求の根本構造について」『哲学論文集』(九州大学哲学会)
- 421 中沢宣夫「アウグスティヌスにおける信仰と知解についての一考察——De trinitate I, 1—4を中心として——」『中世思想研究』第一八号
- 422 荒井洋一「悪の問題におけるアウグスティヌスの探求の方法について」『中世思想研究』第一八号
- 423 加藤信朗「Consulere Veritatem (Augustinus, De Magistro XI, 38—XII, 40). アウグスティヌスの初期照明説をめぐる若干の考察」『中世思想研究』第一八号
- 424 茂泉昭男「アウグスティヌスにおける Virtus の概念の形成と『神の国』の成立」(1)『教会と神学』第八号

- 425 森泰男「アウグスティヌスの創造論における『種子的理
念』の問題」『西南学院大学文理論集』第一七巻、第二号
- 426 M・デ・ブラバンデレ「世の光であるキリストについての
アウグスティヌスの教え」『カトリック神学』第三〇号
- 429 名木田薫「Augustin et mystique」和歌山高専研究紀
要』第一一号
- 一九七七（昭和五二）年
単行本
- 430 山田晶「アウグスティヌスの根本問題——中世哲学研究第
一——」創文社
- 431 三木利英『キリスト教的古代の研究——アンブロシウスと
アウグスティヌス——』風間書房
- 432 泉治典『アウグスティヌス』（世界の思想家三）平凡社
論文
- 433 清田寛「アウグスティヌスについての一考察（二）——
De libero arbitrio 第三巻における Voluntas について」
——『宗教研究』第五一巻、第三輯、第二三四号
- 434 宮谷宣史「教会理解をめぐる争い——特に北アフリカとア
ウグスティヌスを中心にして——」『聖書と教会』第一三二号
- 435 岩村清太「アウグスティヌスによる聖書解釈学と自由学
芸」『広島大学教育学部紀要』第一部、第二六号
- 436 金子晴勇「アウグスティヌスにおける『心』(Cor)の概念
(一)——Cor inquietum 解釈を中心にして——」『国立音楽大
学研究紀要』第一一集
- 437 金井寿男「アウグスティヌスにおける愛の思想」『静岡女
子大学研究紀要』第一〇号
- 438 小浜善信「アウグスティヌスとデカルトにおける cogitare
の異同(一)」『神戸外大論叢』第二八巻、第一号
- 439 岡野昌雄「記憶論と『告白』の構造」『聖トマス学院論叢』
(V・M・ブリオット師献呈論文集)
- 440 松田禎二「人類の歴史と終末——アウグスティヌス『神国
論』の一考察——」『聖トマス学院論叢』(同右)
- 441 荒井洋一「De Magistro における真理の内的な光につい
て」『哲学論文集』(九州大学哲学会) 第一三号
- 442 小浜善信「アウグスティヌスとデカルトにおける cogitare
の異同(二)」『神戸外大論叢』第二八巻、第四号
- 443 岩村清太「アウグスティヌスの自由学芸観(一)」『広島大学
教育学研究紀要』第二二号
- 444 中野清「『告白録』におけるアウグスティヌスの神探求の
道」『哲学論集』(上智大学哲学部)
- 445 高橋亘「自己認識について——アウグスチヌスとトマス・
アキナスの場合——」『中世思想研究』第一九号
- 446 加藤信朗(書評)「山田晶著『アウグスティヌスの根本問

- 題』『中世思想研究』第一九号
- 447 稻垣良典「判断と真理——トマス判断論の 아우グスティヌスの源泉——」『聖トマス学院論集』
- 448 松田禎二「アウグスティヌスにおける悪の問題」『中世思想研究』第一九号
- 449 宮内久光(書評)「山田晶著『アウグスティヌスの根本問題——中世哲学研究——』」『創文』第一六七号
- 450 水落健治「中期アウグスティヌスにおける聖書解釈の思想—— De Doctrina Christiana I, 7, 7——I, 10, 10. II, 7, II——」『中世思想研究』第一九号
- 451 村上二三「アウグスティヌスにおける自由の問題」『中世思想研究』第一九号
- 452 宮谷宣史(書評)「山田晶著『アウグスティヌスの根本問題——聖書と教会』」第一四〇号
- 453 茂泉昭男「アウグスティヌスにおける virtut の概念の形成と『神の国』の成立」『教会と神学』(東北学院大学論集)第九号
- 454 M・デ・ブラバンデレ「助力の恩恵についてのアウグスティヌスの教え」『カトリック神学』第三二二号
- 455 今義博「アウグスティヌスにおける intentio の意味」『山梨大学教育学研究報告』(人文社会学系)第一分冊, 第二八号
- 456 片柳栄一「Die erste Freiheit des Suchens (Prima) 『日本におけるアウグスティヌス文献』」(二)(宮谷)
- quaerendi libertas)——Augustinus in Cassiacum
——」『Kwansei Gakuin University Annual Studies』
Vol. XXVI
一九七八(昭和五三)年
- 論文
- 457 森泰男「アウグスティヌスにおける時間と歴史」『西南学院大学文理論集』第一八巻, 第二号
- 458 宮谷宣史「アウグスティヌス『告白録』研究——試訳と解釈(一)——」『神学研究』第二六号
- 459 金子晴勇「アウグスティヌスにおける自由意志と悪について—— De libero arbitrio を中心として——」『国立音楽大学研究紀要』第二二集
- 460 加藤武(書評)「Ann-Marie La Bonnardiere, L'interprétation augustinienne de magnum sacramentum de Ephés. 5, 32, dans Recherches Augustiniennes, Vol XII —1977」『中世思想研究』第二〇号
- 461 坂口昂吉(書評)「R. A. Markus, Saeculum, History and Society in the Theology of St Augustine, Cambridge 1970」『中世思想』第二〇号
- 462 小沢和道「quaerere と昭明説——アウグスティヌス『教師論』による——」『中世思想研究』第二〇号

- 463 岡部由紀子「De doctrina christiana における signum と知解」『中世思想研究』第二〇号
- 464 片柳栄一「第一の探求する自由 (Prima quaerendi libertas)」『中世思想研究』第二〇号
- 465 野町啓「アウグスティヌスとネオプラトニズム——若きアウグスティヌスと哲学——」『金子武蔵編・ギリシヤ思想とヘブライ思想』以文社
- 466 金子晴勇「初期アウグスティヌスの人間学」『基督教学研究』第一号
- 467 高木孝子「アウグスティヌスの『教師論』(De Magistro) における教育理念の研究——神と人間との『関わり』を中心にして——」『人間学』(上智大学人間学会・紀要)第八号
- 468 赤木善光「アウグスティヌス著作集」の出版について」『本のひろば』第二四五号
- 469 片柳栄一「Worin besteht der Unterschied der Augustinauffassung zwischen A. von Harnack und K. Holl?」『Kwansei Gakuin University Annual Studies, vol. XXVII』
- 一九七九(昭和五四)年
翻訳
アウグスティヌス著、赤木善光訳「信の効用」『アウグス
ティヌス著作集』第四巻、教文館
- 471 アウグスティヌス著、赤木善光訳「信仰と信条」『同右』
- 472 アウグスティヌス著、赤木善光訳「シンプリキアヌスへ」『同右』
- 473 アウグスティヌス著、赤木善光訳「信仰・希望・愛(エンキリディオソ)」『同右』
- 474 アウグスティヌス著、岡野昌雄訳「二つの魂」『アウグスティヌス著作集』第七巻、教文館
- 475 アウグスティヌス著、岡野昌雄訳「フォルトゥナトゥス駁論」『同右』
- 476 アウグスティヌス著、岡野昌雄訳「基本書と呼ばれるマニの書簡への駁論」『同右』
- 477 アウグスティヌス著、岡野昌雄「善の本性」『同右』
- 478 アウグスティヌス著、岡野昌雄「結婚の善」『同右』
- 論 文
- 479 赤木善光「注と解説」『アウグスティヌス著作集』第四巻、教文館
- 480 赤木善光「アウグスティヌス小伝(一)」『アウグスティヌス著作集』第四巻・月報一』
- 481 秀村欣二「アウグスティヌス随想——性をめぐって——」『同右』
- 482 中川秀恭「アウグスティヌスとの出会い」『同右』

- 483 岡野昌雄「注と解説」『アウグスティヌス著作集』第七巻、
教文館
- 484 小野忠信「アウグスティヌスとの関わりあいのなかで」ア
ウグスティヌス著作集第七巻・月報二
- 485 高橋亘「告白録」の中の一、二の点について『同右』
- 486 赤木善光「アウグスティヌス小伝(二)」『同右』
- 487 宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス研究(上)」『同
右』
- 488 八木誠一、小川国夫「対話・アウグスティヌスと現代」
『日本読書新聞』一月二五日
- 489 門馬直美「アウグスティヌスの『音楽論』」『同右』
- 490 森泰男「アウグスティヌス」創世記逐語注釈における光の
創造について(一)『西南学院大学文理論集』第一九巻、第二号
- 491 久米あつみ、岡野昌雄「対談・人間アウグスティヌス」『キ
リスト新聞』四月二日
- 492 清重尚弘「定点としてのアウグスティヌス」『同右』
- 493 中川秀恭、P・ネメシエギ(対談書評)「永遠から自己と
世界を見る——『アウグスティヌス著作集』をめぐる——」
『本のひろば』三月号
- 494 荒井洋一「アウグスティヌスにおける場所的表現様式につ
いて」『東京学芸大学紀要 第二部門 人文科学』第三〇集
- 495 宮坂亀雄・九山忠孝(対談)「アウグスティヌスと現代」
『日本におけるアウグスティヌス文献』(二)(宮谷)
- 496 『クリスチャン新聞』、三月二一日号
出村彰(書評)「圧倒的な恩恵体験の表出——『アウグステ
ィヌス著作集4 神学論集』」『本のひろば』二五〇号
- 497 水垣涉(書評)「アウグスティヌスの△不安▽——『アウグ
スティヌス著作集7 マニ教駁論集』」『本のひろば』二五一
号